

プールに関する他都市の事例

- ・ 愛知県武豊町屋内温水プール
- ・ 愛知県常滑市（公営プールの活用）
- ・ 佐賀県伊万里市（民営プールの活用）

愛知県常滑市



Point！ 多角的な検討により、小学校は全校廃止・中学校は改修して維持

- ▷ 集約化の方針の策定にあたって、様々なケースを多角的に検証
- ▷ 小学校プールは順次廃止して、市営プールまたは中学校プールに集約する方針
- ▷ 策定した方針に基づき、中学校プールは計画的に整備を進める

1. 学校施設の現状の課題

小中学校のプール施設については、全13学校のうち、11校のプール及び管理棟が築後40年以上を経過し、老朽化が進行している。また、プールの水を浄化するろ過機の約6割が耐用年数の目安としている30年を経過している。

衛生的な環境でプールを使用するためには水質などの管理を適正に行うことが重要であり、プールの水を浄化するろ過機の点検、プール水槽及びプールサイドの修繕等を適宜実施しているが、維持管理していくためには保守点検費や光熱費だけでなく、老朽化に対して改修・修繕費が必要になっていった。

こうしたことから、保有するプールの状況や維持管理費などの分析、プール施設の更新に係る整備費の試算等の検討を踏まえ、今後におけるプール施設のあり方について、一定の方針案を策定した。

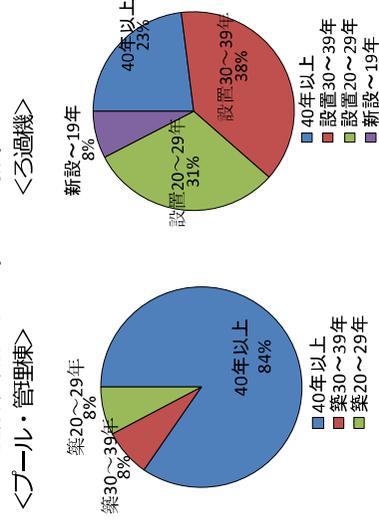
◇ プール施設の維持管理費

児童・生徒が衛生的な環境でプールを使用するためのプール水を浄化するろ過機の点検、プール水槽及びプールサイドの修繕等直近3年(H26～H28)の平均単年度実績(13学校の合計)
25,940千円/年

(内訳)

改修	修繕	保守点検	光熱水費	薬品(浄化用)	その他(水質検査等)
12,830千円	3,610千円	300千円	7,800千円	1,000千円	400千円

プール施設築年別グラフ (H29.8時点)
〈プール・管理棟〉



老朽化したろ過機 (S57 設置 青梅中学校)

2. 解決策及び工夫点

- ・市で考えうるあらゆる方法を検討し、メリット・デメリットを比較した結果、小学校プールを全廃とする方針を決定。

多角的な検証及び方針決定

集約化の方針について、様々なパターンを整理し検討

市で考えられる今後のプールの在り方についてのパターンとして、**A.全学校において保有し更新する場合、B.複数校にて施設の共同利用を行う場合、C.市営プールを使い集約化する場合、D.市民プールを新設すること仮定して集約化する場合**で場合分けをした。民間施設の利用は、施設へのヒアリングにより、会員制であること等から本市の学校への活用は難しいという結論に至った。各パターンを様々な側面（右下表①～⑤）により比較し、メリットが多いと思われるものから◎○△×にて整理し、×がなく、メリットの多い市営プールを活用した集約化（C3）での今後のプールの方向性を決定した。

市営プールを活用した集約化

- <メリット>
 - ・建設コスト・維持管理費が不要
 - ・天候に左右されず美技指導が可能
 - ・専門スタッフによる実技指導が可能

<デメリット>

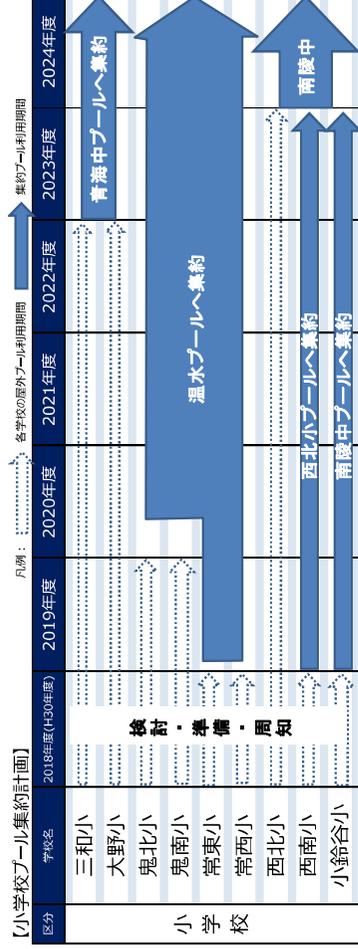
- ・既存温水プールの利用規制
- ・温水プールへの移動時間
- ・バス移動のコスト・安全性
- ・部活動のケアが必要
- ・夏休みの開放・皆泳指導が困難
- ・中学は他の教材に影響



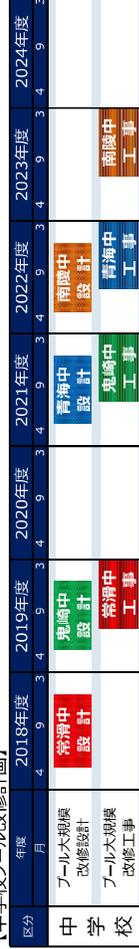
メリットを活かしつつ
デメリットを軽減

<方針>・小学校プールは全廃し、既設の市営温水プールまたは中学校プールに集約。
・中学校プールは計画的に改修し維持継続。

小学校は令和元年度からまず4校を廃止、令和6年度に全廃し、中学校は計画的な整備を行う方針。



【中学校プール改修計画】



区分	①が泳授業	②建設・維持コスト	③安全性	④部活動	⑤市民サービス
A 全小中学校 リニューアル(更新)	◎ 各学校で水泳授業が可能	× 高い市財政状況を踏まえた判断が必要	△ いずれ迎える少子化を踏まえた判断が必要	○ 4中学校で部活動の実施可能	○ 現行のサービスを維持できる
B 施設でプール施設の共有(中学校のシェア)	× 大別原学区はシーズン期間内での水泳授業の実現困難	○ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	○ 各学区の拠点校であり、将来に渡って利用可能	○ 4中学校で部活動の実施可能	○ 現行のサービスを維持できる
C1 施設 温水プールへ集約	× 授業プログラムの開発は必要で、上・中学の水泳授業は実現困難	◎ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	◎ 少子化や学区再編など将来ニーズに柔軟に対応が可能	△ 重なる一般利用種別への移動が必要であるが実施可能	× 大きな一般利用種別への移動が必要
C2 小学校施設温水プールへ集約 + 中学校改修	○ 授業プログラムの開発は必要で、上・中学の水泳授業は実現困難	○ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	◎ 少子化や学区再編など将来ニーズに柔軟に対応が可能	○ 4中学校で部活動の実施可能	△ 現行のサービスを維持できる
採用 C3 小学校施設温水プールへ集約 + 中学校改修	○ 授業プログラムの開発は必要で、上・中学の水泳授業は実現困難	○ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	◎ 少子化や学区再編など将来ニーズに柔軟に対応が可能	○ 4中学校で部活動の実施可能	△ 現行のサービスを維持できる
D1 施設 温水プールへ集約	× 授業プログラムの開発は必要で、上・中学の水泳授業は実現困難	△ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	○ 少子化や学区再編など将来ニーズに柔軟に対応が可能	◎ 4中学校で部活動の実施可能	◎ 現行のサービスを維持できる
D2 小学校施設温水プールへ集約 + 中学校改修	○ 授業プログラムの開発は必要で、上・中学の水泳授業は実現困難	○ A案に比べれば建設・維持費が約2/3	○ 少子化や学区再編など将来ニーズに柔軟に対応が可能	◎ 4中学校で部活動の実施可能	◎ 現行のサービスを維持できる

3. 取組へのプロセス

年	月	教育委員会	学校	その他	具体的事象
平成29	8	検討開始			課内での検討開始。学校教育課の担当者を中心に、温水プールの指定管理を担当している生涯学習スポーツ課を交えて検討。
	12		校長へ説明		校長会にて教育委員会より学校に説明、意見聴取。
平成30	1	議会承認 教育委員会議報告			議会に対して説明、承認。 教育委員会定例会にて教育委員会に対して報告。
	2		方針説明		各学校からの意見を取りまとめ、各学校に対応方針を示す。
	11			市営プール見学	市営プールで令和元年度に水泳学習を開始する2校の担当教員と教育委員会で温水プールを見学。
	12			市営プール 利用者説明	一般利用者に対して、市営プール利用者説明会を実施。
	2			調整	市営プールで令和元年度に水泳学習を開始する2校と次年度のスケジュール等について打ち合わせ。
	3			調整	次年度から取組を開始する学校について、学校間でスケジュール等について打合せ。
平成31 令和元			学校のPTA説明		学校長がPTA役員に対して説明を行う。
	5			市民への広報	市の広報にて市営プールの小学校水泳学習の受け入れについて掲載。 市営プールまたは他の小中学校で水泳学習を行う4校（西浦南小、小鈴谷小、常滑西小、常滑東小）の保護者向けにプール取組についてのお知らせを配布。
今後	6		学校4校について取組開始		4校プールの廃止し、他学校プールまたは市営プールへ移行。
					計画に基づき順次集約化予定。

<市の全体方針として>

市では「常滑市公共施設等総合管理計画」（平成28年4月策定）の行動指針として、市保有の一般会計の行政機関種施設を対象とし、平成30年度からの40年間を計画期間とした「常滑市公共施設アクションプラン」を、平成30年3月に策定している。

常滑市公共施設アクションプランでは、今後の人口減少や施設ニーズの変化、施設の老朽化に対応し、効率的・効果的に施設の維持管理を行うことを目的として、複合化や専用等による縮減の方策を検討し、40年後の市の施設総量を25%削減（平成27年度比）することを目標としている。

➤ 取組実施について

令和元年度は下記の学校について取組を開始した。

利用校(プール廃止)	実施場所	期間	備考
西浦南小	西浦北小	6～7月	・2学年（単学級）40～50人程度を学校の教師2名で指導。 ・各学年の1日の授業時間は2時間。予備日を設けていたが天候不良等で中止した日もあり、10時間実施することはできなかった。
小鈴谷小	南陵中	6～7月	・2学年（単学級）60人程度を学校の教師2名で指導。 ・各学年の1日の授業時間は2時間。天候に恵まれたため10時間実施した。
常滑西小	市営プール	6～7月	・1学年（3クラス）100人程度を学校の教師3名で指導。
常滑東小	市営プール	9～10月	・2学年（4クラス）150人程度を学校の教師4名で指導。 ・1～3年の2クラスと4～6年の2クラスを組合せた。

※学習指導要領に基づいた知多地方教育計画に基づき、各学年の授業時間について10時間を基準としている。

※市営プールは天候に左右されないで、10時間実施が可能。

- ◇ 市営プールでは小学校が水泳学習を行う期間、低学年が使用できるように使用レーンに高さ調節台を設置した。また、安全対策のために一般のコースとの間に柵を設置した。
- ◇ 小学校と中学校のプールは水深等の仕様が同じであったため、小学生も違和感なく中学校プールを利用した。

4. 効果

➤ 教育的効果

- ◇ 温水プールは水温や気温が保たれているため、子どもたちの体調が安定し、集中して水泳に取り組むことが可能。
- ◇ バス移動は子どもたちが遠足に行くような気持ちになり、普段とは違う環境でプールを楽しんでいた。水泳嫌いだった子どもの保護者から「今年は特に頑張っており組んでいた」という報告を複数受けた。

➤ 財政的効果

～全校保有し更新する場合と市営プールを活用した集約化をする場合の比較～

【全学校更新】

学校屋外プールを順次リニューアル

40年間の整備費：約27億円

40年間で

10億円削減



【常滑市の方針】

小学校プールは廃止して集約化
中学校プールは改修

40年間の整備費：約17億円

<40年間のコスト試算（単位：百万円）>

区分	施設建新費	維持管理費	バリア設備費等	合計
A 全小中学校 リニューアル(更新)	1,892	768	0	2,660
B 複数校で プール施設の共有 (4中学校リニューアル)	582	236	755	1,573
C1 既設 温水プールへ集約	75	545	1,159	1,779
C2 小学校既設温水プールへ集約 + 中学校改修	541	418	644	1,603
C3 小学校既設温水及び地区 拠点プールへ集約 + 中学校 改修	541	431	773	1,745
D1 新設 温水プールへ集約	761	1,111	1,159	3,031
D2 小学校新設温水プールへ集約 + 中学校改修	1,227	1,347	644	3,218

5. 今後の課題

- ◇ 令和2年度から市営プールを使う学校が4校に増えるため、学校間での日程調整が難しくなる。(当初は5月から11月の実施を予定していたが、児童の体調面を考慮し、5月から10月の実施に予定を変更している。)
- ◇ 屋外プールを使う学校では、天候不良等で水泳学習が実施できない日が出てくるため、予備日の設定が不可欠であるが、バスの移動費に関わるため、学校と相談して適正な日数を設定する必要がある。
- ◇ 学校の周辺道路が狭くバスの乗入れができない学校もあり、バスの乗降場所や待機場所を検討する必要がある。
- ◇ 南陵中学校のプールについては、将来的に小学校3校と中学校1校の計4校で使用する計画をしているが、短期間のプール期間中に4校が使用することに対して日程調整の面で不安視する声もあるため、今後計画を見直す可能性がある。

<愛知県常滑市データ>令和2年1月末時点

人口 約5.9万人

学校数 小学校9校

中学校4校

常滑市は、温暖で農産物も多く住みやすいまちです。中部国際空港の開港を始め、企業立地や区画整理事業が進み、まちは大きく変わってきていますが、古くから続く焼き物の産地として昔ながらの街並みや古窯も点在しており、平成29年度には「日本六古窯」の一つとして日本遺産に認定されています。



『セントレア』

常滑市キャラクター『トコタン』

佐賀県伊万里市



Point! 施設、指導、移動の面で民間プールを活用

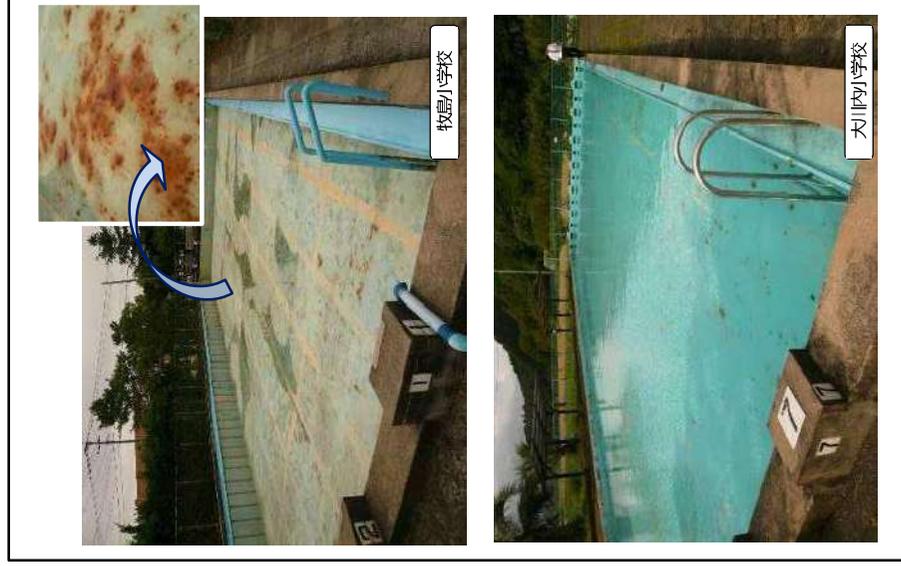
- ▷ 民間プールの活用による施設の維持管理コストの削減
- ▷ 水泳専門のインストラクターの指導
- ▷ 移動バスの確保及び送迎も含めて民間プールに委託

1. 学校施設の現状の課題

牧島小学校と大川内小学校のプールは鋼製プールであり、老朽化により毎年多くの錆が発生していた。そのため、水泳シーズンが始まる前に各校40万円程度の費用をかけて研磨及び塗装を行い使用していたが、腐食の程度が著しく、研磨と塗装を繰り返すだけでは対応が難しくなってきたおり、大規模改修が必要な時期を迎えていた。

改修コストを抑えるため、FRP（繊維強化プラスチック）のライニングによる水槽全体の改修を見積もったところ、各校2,000万円を超える金額となった。それに加えてプールサイドやろ過機の老朽化も進んでおり、それらを含めると両校で6,000万円程度のコストがかかることが見込まれたが、予算の確保が難しく、対応策を抜本的に見直す必要があった。

- ◇ 〒 牧島小学校（令和元年5月時点 学級数7、児童数63名）
鋼製プール。昭和41年に屋外設置。
本プール：25m×7コース、水深1.0m～1.1m
- ◇ お 大川内小学校（令和元年5月時点 学級数8、生徒数90名）
鋼製プール。昭和43年に屋外設置。
本プール：2.5m×7コース、水深0.8m～1.0m



2. 解決策及び工夫点

- ・ 多くの民間プールを活用して、天候に左右されず環境の安定したプール施設で、水泳の専門員の指導のもと、計画的な授業実施が可能に。

民間プールのメリットを活かした授業

老朽化した2校のプールのあり方を検討している中で、千葉県佐倉市での民間プールを利用した水泳授業の事例（次頁参照）を知り、バス移動で8分圏内の場所に民間のスイミングスクールがあったため、**民間プールを活用して授業を行うことで2校のプールを廃止**することとした。



民間プールの活用事項とメリット

- プールの利用・・・・・・・・
- 授業の指導・・・・・・・・
- プールと学校間の移動・・・

充実した施設・設備

水泳の専門インストラクターによる指導

バス送迎も含めた契約が可能

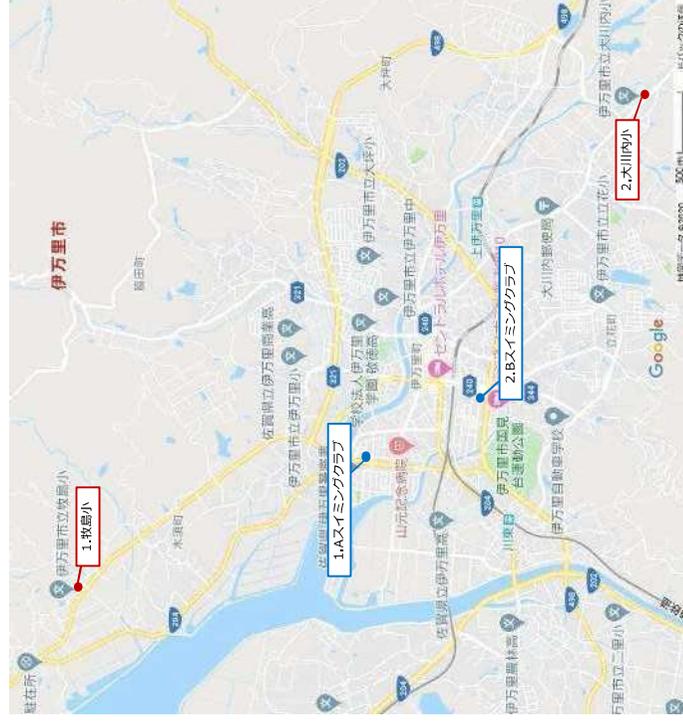
民間プールの概要と委託内容

民間プール	Aスイミングクラブ	Bスイミングクラブ
利用学校	牧島小学校	大川内小学校
プール概要	屋内 25m×6コース ・水深 1.1m～1.2m×5コース ・幼児用水深 0.7m×1コース	屋内 25m×5コース ・水深 0.9m～1.2m×4コース ・幼児用水深 0.5m×1コース
移動	民間プールが保有するバスで約5分	民間プールが保有するバスで約8分
授業での利用	プールの一般利用前の8時～10時に授業をする場合は貸切りで行い、10時以降は一般利用とレーンをわけて2～3コースのみを使用。	プールの一般利用が休みの月曜日は貸切りで行い、その他の曜日是一般利用とレーンをわけて2～3レーンを使用。

- ・ 2学年（20人～30人程度）を同時に授業し、**学校の教員2名と民間プールの指導員2名（インストラクター1名、監視員1名）（インストラクター補助）1名）**により、指導を実施。
- ・ 水泳指導は授業として各学年7回（1回につき70分程度）、その他校内外泳大会等で利用。
- ・ 授業期間における**児童と教員の送迎について、民間プールがバスの確保及び運転業務**を行う。

水泳指導の流れ

- (1) 指導内容等打ち合わせ
指導は学習指導要領の内容を基本とし、学校の年間指導計画を基に、学校と民間プールで打ち合わせの上、決定。
(2) 実施
チームティーチングによる安全で効果的な指導。
(3) 報告
各回の水泳指導実施後にプール日誌を記載し、指導にあたった教員・インストラクター、指導内容、児童の健康の状況等を記録。
全ての水泳指導が終了後、事業完了報告書を作成し、教育委員会へ提出。



右図：<学校・民間プール位置図>
(番号は共同利用の組合せ)

3. 取組へのプロセス

年	月	教育委員会	学校	民間プール	具体的事象
平成28	7	検討開始			プールの老朽度合を確認。 課内で対応方法の検討を開始。
		先進事例調査			先進事例（千葉県佐倉市）の調査。
	8		取組の打診	取組の打診	牧島小、大川内小の両学校に民間プールに民間プールの授業の打診し、学校側からも賛同を得る。 民間のスイミングスクールに打診。
9		校長会説明		市内学校の校長会にて事業計画を説明。	
9～11		調整		牧島小、大川内小、民間プール、教育委員会で具体的な計画について協議を重ねる。	
平成29	3	議会説明、承認			議会に説明、承認を得る。
		保護者説明			保護者を対象にした説明会の開催。
	5			契約締結	民間のスイミングスクールと契約締結。
	6		取組開始		民間プールにて授業開始

> 取組実施について

千葉県佐倉市で民間プールを利用した水泳の授業が行われていることを参考とした。

(参考) 佐倉市の事例（「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成29年3月 文部科学省）P102～103）

11 民間スイミングスクールの活用

千葉県佐倉市

【背景】
 佐倉市は、牧島小・大川内小・大川内中（以下「1校1プール」として、小・中学校のプールがそれぞれ別棟を有する）の3校から成る。民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。

【課題】
 ・平成28年度から平成29年度にかけて、1校1プールの老朽化が進み、プールの老朽化が顕著な状況となっている。
 ・平成28年度から平成29年度にかけて、1校1プールの老朽化が進み、プールの老朽化が顕著な状況となっている。
 ・平成28年度から平成29年度にかけて、1校1プールの老朽化が進み、プールの老朽化が顕著な状況となっている。

【対応経緯】
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。



【取組の目的・ポイント】
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。

【取組の効果】
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。

【取組の留意点】
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。
 ・民間スイミングスクールの活用により、児童生徒が安全に水泳の授業を受けることができる。

☆ 授業の実施期間は6月～7月で、各学年2単位時間×7回の水泳授業を受ける。(2単位時間は移動及び着替え時間を含むため、実習指導は1回あたり70分)。

☆ 移動が必要なため、2単位時間を連続させて対応し、授業時間を確保と移動回数削減を図っている。

通常授業の場合

1時間目	休	2時間目	休	3時間目	休	4時間目	給食等	5時間目	休	6時間目
水泳授業がある場合										
1時間目	休	2時間目	休	移動	水泳授業(約70分)	移動	給食等	5時間目	休	6時間目

4. 効果

➤ 教育的効果

- ◇ 専門のインストラクターによる指導により、効果的な指導が可能。また、教員の指導力の向上につながる。教員からの意見として「専門インストラクターは様々な指導方法を知っており、ゲーム形式等を取り入れた指導で、効果的に水に慣れさせることができました」、「泳ぎ方について細かく具体的に教えてもらえた」、「模範泳を示すことができる」、「児童の泳ぎで改善すべき点を的確に指摘できている」等があった。
- ◇ 水温や水質、衛生管理など、安定した環境で授業ができる（温水シャワーやエアコンの効いた広い更衣室、見学スペースなど、設備が充実しており、冷たい水を怖がる児童が抵抗なくシャワーを浴びることができ、障害のある水に浸かるとすぐに寒くなるため泳ぎたくても泳げない）児童が泳ぐことができた。
- ◇ 複数人で指導するため、習熟度別の指導ができる。
- ◇ プライバシーが高い空間で授業を受けることができる。
- ◇ 授業が天候に左右されずに実施できる。



➤ 財政的效果

- ◇ プールを大規模改修して使用し続ける場合と比較して、コストを抑制することができる。

【参考】民間プール利用委託料

令和元年度における2施設（各施設1校ずつ）の年間委託料合計：1,944千円

- ◇ 学校の職員によるプールや水質の管理が不要となり、見えないコストダウンを図れた（水質管理には多くの時間がかかるため、職員にとっても大きな負担となっていた）。
- ◇ 2単位時間連続で授業を行う工夫をしているものの移動時間は必要であり、実質的な水泳の時間が限られる。
- ◇ 民間プールでは水泳の技術を教えることに偏りがちになるため、「自ら考えて練習する」ことや「主体的に運動に関わる」ことなど、体育の授業としてどのように実施するかについては学校側と民間プール側との十分な協議が必要である。
- ◇ 教員とインストラクターが指導内容等について事前には打ち合わせする必要がある。

5. 今後の課題

<佐賀県伊万里市データ> 令和2年1月時点

人口 約5.5万人

学校数 小学校：14校

中学校：7校

義務教育学校：1校

伊万里市は、古くは「古伊万里」の輸出港として、近年では伊万里学総合開発を軸に大規模な臨海工業団地を造成し、近代的な工業港として、またアジアから世界へのゲートウェイとして発展しています。また、「古伊万里文化」の香りが漂う焼き物などを市内の観光で見ることができ、四季折々に往時の面影がしのべられます。平成31年3月に策定した第6次伊万里市総合計画においては、「時代に柔軟に適応し、みんなが支え育てるまちづくり」を基本理念とし、将来都市像である「人かみ、まいきと活躍する 幸せ美談のまち 伊万里」の実現に努めています。



学校利用と一般利用が共存、誰もが気軽に水に親しめるプール



設置 武豊町
運営 指定管理者：武豊ウェルネスパートナーズ
 ☎ (0569) 84-0220

■所在地
 ・愛知県知多郡武豊町忠白田11-7
■アクセス
 ・JR武豊駅から車で4分

DATA

■竣工 ・2022年
■規模 ・延床面積 5,553.80 m²
■総事業費 ・約41億円(税込)
 一学校施設環境改善交付金

■主な設備



■体制図 DBO方式



構想・計画

設計・建設

管理・運営

○住民の健康増進と学校教育の機能を併せ持つ施設

■町民の健康増進のための施設へのニーズ

・本町では、近年の健康志向ブームによりメタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防や改善として運動を始める人が増加していることから、誰でも無理なく実践できる水中運動が注目されており、住民から健康づくりができ、集い・憩える温水プールの建設の要望が多くあった。



高齢者にとっては気軽に始めることができる運動である。屋内温水プールを利用することで天候に左右されることがないため計画的に運動を継続することが可能

■老朽化する学校プールへの対応

・武豊町内4つの小学校において、プールの老朽化が進行、その改修に膨大な費用を要することが見込まれていた。また、小学校のプールは屋外で天候に左右されるため、必要な水泳の授業時間を確保することが難しい年もあるという課題が見られ、その対策が必要となっていた。

町民にとって交流の場ともなる屋内温水プール

町民の健康増進機能

✕ 小学校プール代替施設

基本理念

- ・誰でも親しめる
- ・安全で快適
- ・始めやすい
- ・様々な交流
- ・環境にやさしい

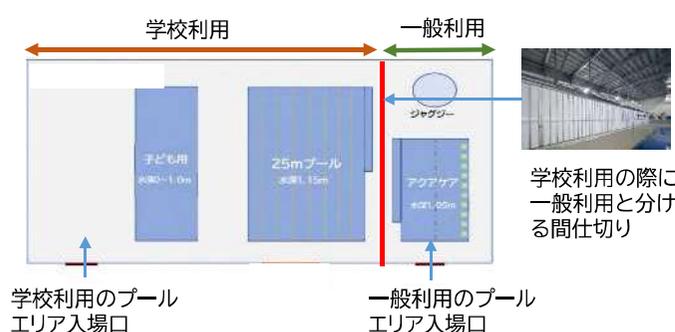
○一般利用と学校利用との動線を分けた設計

■利用者の安全性や利便性に配慮した空間構成

・構想段階から一般利用と小学校の教育利用との共用を想定していたため、双方の安全性や利便性に配慮し、両者にとってわかりやすいゾーニングや空間構成を実現している。

・具体的には、建物入口や更衣室、プールエリアの入口に至るまで学校利用と一般利用との動線を分けている。また、学校利用の際は25mプールと子ども用プールを学校が使用、25mプールとアクアケアプールとの間に設置した可動式の間仕切りを閉めることで双方が目線を気にせず安心して利用できる設計とした。

<学校利用の際のゾーニング>



学校利用の際に一般利用と分ける間仕切り

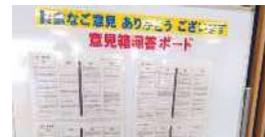
○一般利用と学校利用が共存した運営の実施

■様々な一般利用者に配慮した取組

・利用料金については、障害者は通常の5割、その介助者は1名無料、18歳未満障害児は無料とし、利用促進を図っている。

・また、多くの市民の方に利用してもらうために、エントランスに「意見箱」を設置し、毎月その意見に対する回答を行い、改善を図っている。

・施設のホームページに加え、月1回、町の広報誌や各種SNS等を用いて積極的に情報発信を行っている。



■学校優先での日程調整

・学校教育利用は1学期(4月~7月)の午前中で、その間プールは学校利用優先としている。

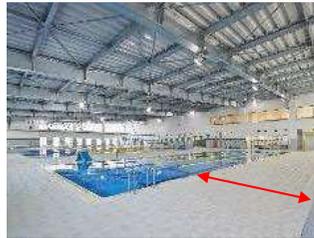
・4校が利用するため、各校の授業実施日を曜日固定している。

	1,2時限	3・4時限
子ども用プール	低学年	低学年
メインプール	高学年	高学年

プール

▶ 学校教育利用と一般利用の共同利用のため、子どもから大人までが安全・利用しやすい空間を実現するための様々な事項が配慮されている。

プールサイドが狭いと、学校教育利用が難しいとともに、親子等の一般利用者の歩行や車いす利用者、足が不自由な高齢者等の通行等の妨げになる恐れがあるため、スポーツを「する」場として安全面を配慮した工夫が求められる。



【要求水準書】

- ・プールサイドは、学校利用時、児童170人以上の同時利用に対応できるスペースを設けること。
- ・学校授業時に授業見学者が待機できるスペースをプールサイドに設けること。

＜一般利用への波及＞

学校利用時の要求水準が一般利用の際、ユニバーサルな空間の実現に寄与している。

- 広々としたプールサイドによる高齢者や障がい者も歩きやすい環境
- 親子での利用においても、親が安心して子どもと一緒に運動することができる環境
- 障害児を対象としたプログラムも安全な環境で展開

プールサイドは、滑りやすく転倒してケガのリスクにつながりやすい環境である。



滑りにくい床にすることによって、子どもや足が不自由な方にとって安全な環境。

子どもと大人では体格異なることから、水道や目洗い場の高さに留意する必要がある。



高さが異なる洗面を設置するとともに、車いす利用者も利用できるよう、台の下もあけている。

プールの入水は、足が不自由な利用者は負担となり、利用の障壁となる。



プールにスロープを設け、足の不自由な方だけではなく、車いす利用のまま入水することが可能。

プールで泳いだり歩いたりするなど、なかなか身体を動かすことが難しい利用者もいる。



運動補助器具を設置したアクアケアプールを設置、様々な運動法を提案し、誰もが気軽に利用できる工夫を実施。



踏み台トレーニング

高齢者等の中には、入水直前まで杖を使わないと転倒のリスクがある。



プールサイドで杖を利用できるように、プールサイドにつ立てを設置し、安全を確保。

障害者等は介助者がいる場合もあり、更衣室等の障壁がある。



十分な広さもあり、下段が開いているロッカーは車いす利用者も手が伸ばしやすい。車いすトイレも更衣室内にあり、水着のまま利用可。

障害者は立ったままシャワーを浴びづらい。



座ってシャワーを浴びることができるように椅子を設置。



更衣室としても利用できる会議室



プールで泳いだ後の冷えた身体を温めリラックス効果もあるジャグジーと温浴施設も設置



	←子ども用プール側					アクアケアプール側		
基本	8	7	6	5	4	3	2	1
遊泳	遊泳	25m	50m	50m	25m	練習	歩行	
2コース使用	8	7	6	5	4	3	2	1
水泳教室	水泳教室	遊泳	25m	50m	25m	練習	歩行	

25mプール等は、様々な利用を可能とするため、コースごとに利用方法を決めて運営している。

その他の施設



授乳スペースは男性が入りづらい。



男性も入りやすいよう授乳スペースを「ベビーケアルーム」とネーミング。また、他者がベビーケアルームを使用中でも調乳できるよう、浄水給湯器は外に設置。

一般用のトレーニングマシンでは車いす利用者が使いづらい



椅子をずらすことにより車いすに乗ったまま利用可能なトレーニングマシン。

雨の日等、車いす利用者が入口まで濡れてしまい、負担となる。



入口が近く、屋根がある部分に広いスペースの優先駐車場を設置

休憩や子どもの待ち時間に過ごす場所がなく、交流も希薄である。



プールやトレーニング室を利用しなくても利用できる飲食販売スペースと休憩スペースの設置

利用者現状

利用人数

【利用人数】

- ・一般利用 44,437人
- ・会員 49,708人
- (2022年4月～2023年1月)

【学校教育利用】

- ・学校教育利用は4校のうち、児童数により2校が20回、もう2校が35回の授業を実施
- ・2022年4月～7月までの延べ利用者数は11,481人
- (参加者10,789名、見学者692名)

効果

- ・オープンしてから利用者の評価も概ね好評である。
- ・特別対応が難しかった例や想定と異なった点などは見られていない。
- ・開業後間もないが、現状では「町民の健康増進」「子どもの健やかな成長」「交流の場の提供」という町の条例に明記された方向性に資する施設としての役割を果たしている。

利用者Voice

- ・とてもきれいで、プールのコースもたくさんあって泳ぎやすい。(一般利用)
- ・トレーニング室を利用したのですがスタッフの対応、器具ともに素晴らしいです。利用料金も安いと感じました。(一般利用)
- ・施設スタッフが児童に声をかけてくださり助かった。(学校の教職員)
- ・トイレに行きたくなったり体調不良の児童に対する監視員の対応が早くて良かった。(学校の教職員)